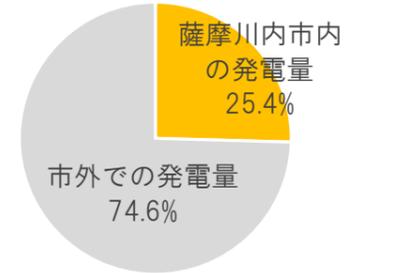


薩摩川内市は「エネルギーのまち」

薩摩川内市に立地する基幹電源施設では、九州電力管内で発電される電力量の4分の1^{*}を発電しています。

本市は九州地域の市民生活や経済活動を支える「エネルギーのまち」です。

さらに、本市には多くの次世代エネルギー発電施設が立地しており、約81,000世帯の電力消費量に相当する電力を発電しています。



※川内原子力発電所の発電量と市内火力発電所（川内発電所・甌島第一発電所）の発電量の合計を、九州電力管内の総発電量で除して算出。
市内火力発電所の発電量は、九州電力管内における火力発電の総発電量に、市内火力発電所の設備容量比を乗じて算出。
（※平成28年度上半期（4～9月）の発電量実績をもとに推計）

基幹電源施設

原子力発電	1,780,000 kW (890,000kW×2基)
火力発電	1,000,000 kW (500,000kW×2基)
内燃力発電	14,250kW

（平成27年度末）

次世代エネルギーの導入状況

太陽光発電	約82,000kW	バイオマス発電*	23,700kW
風力発電	27,600kW	小水力発電	30kW

市内の施設例

太陽光発電 総合運動公園 太陽光発電所 【場所】総合運動公園 【設備】670kW(全量売電用 630kW、自家消費用 40kW) 【運転開始】平成26年2月 【備考】太陽光発電・蓄電池等を活用した防災拠点として整備しました。	風力発電 柳山ウインドファーム 【場所】高江町柳山から久見崎町笠山周辺 【出力】27,600kW(2,300kW×12基) 【運転開始】平成26年10月 【備考】約15,000世帯へ供給できる発電能力を備えています。	木質バイオマス発電 中越パルプ工業 木質バイオマス発電 設備 【場所】宮内町 【出力】23,700kW 【運転開始】平成27年11月 【備考】主に未利用木材を燃料としており、約43,000世帯へ供給でき、発電能力を備えています。	太陽光発電等 川内駅次世代エネルギー関連設備 【場所】川内駅前 【設備】太陽光発電 30kW、小型風力発電 5kW、蓄電池容量 33.7kWh 【運転開始】平成28年3月 【備考】平常時は次世代エネルギー情報発信拠点として、非常時は次世代エネルギーを活用した防災拠点となります。
---	---	---	--

用語解説

- 【シティセールス】旅・食・品に関する素材を総合的に売り込みながら、市外への知名度や好感度の向上と住民による郷土愛の醸成を図ることで地域雇用の拡大と市民所得の向上を導き出す一連の活動のことです。
- 【スマートハウス】情報通信技術（ICT）を活用して家庭内のエネルギー消費が最適になるように制御された住宅のことです。
- 【スマートタウン】情報通信技術（ICT）や蓄電池等を活用してエネルギー消費の最適化やエネルギー制御が行われている街のことです。
- 【バイオマス発電】バイオマスとは、エネルギー源として利用できる生物体、また、それらの生物体を利用することで、この生物資源を「直接燃焼」したり「ガス化」するなどして発電します。技術開発が進んだ現在では、様々な生物資源が有効活用されています。
- 【エコツーリズム】地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みのことです。
- 【ソーラーシェアリング】農地に支柱を立てて、営農を継続しながら上部空間に設置する太陽光発電設備等の発電設備のことです。
- 【セルロースナノファイバー】木、草、花などを構成する主要成分、植物が作り出した天然高分子のことです。

■担当
薩摩川内市役所 企画政策部 企画政策課 政策グループ
TEL 0996-23-5111 FAX 0996-20-5570
E-mail:seisaku@city.satsumasendai.lg.jp

（2017年3月発行）④

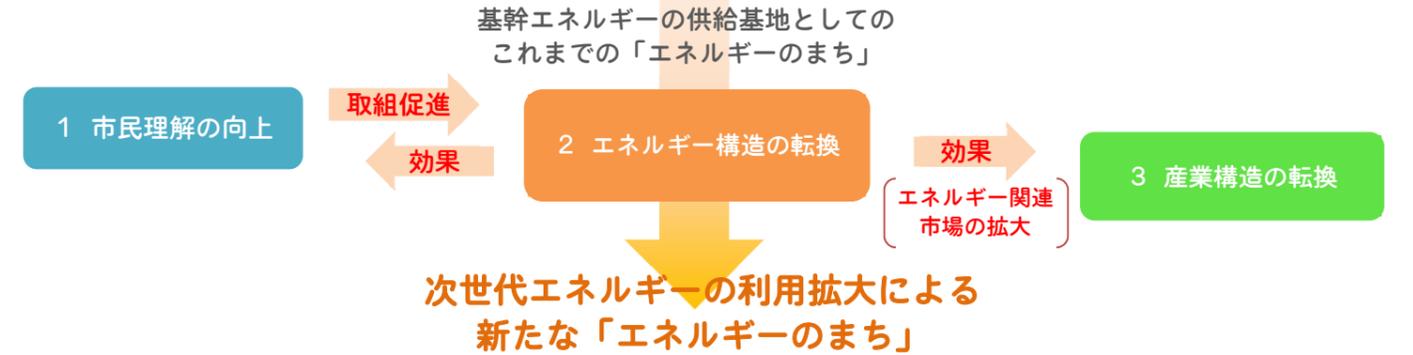
薩摩川内市次世代エネルギーのまち・地域戦略ビジョン

平成29年度～平成36年度



目指す社会像

エネルギー構造転換（次世代エネルギーの利用拡大）を通じて、地域エネルギーに対する市民理解が更に向上するとともに、エネルギー関連市場の拡大によって持続可能な産業構造へと転換する地域社会の実現を目指します。



ビジョンの施策体系図

基本方針	テーマ	具体的な取組内容
1 市民理解の向上	①市民にとっての分かりやすさを重視した普及啓発	1-1 参加・体験を重視した普及啓発 1-2 観光施設やスポーツ交流施設への次世代エネルギーの導入促進
	②快適で安全・安心な市民生活を支える次世代エネルギー技術の普及	1-3 市民生活における非常時のエネルギー確保の向上 1-4 次世代自動車の導入促進 1-5 次世代自動車の利用環境の整備促進
	③「エネルギーのまち」のブランド化	1-6 次世代エネルギー見学ツアーの企画・運営支援 1-7 「エネルギーのまち」をテーマとしたシティセールス*の推進
2 全市レベルで取り組むエネルギー構造転換	①スマートハウス*の普及促進	2-1 市民生活への次世代エネルギーの導入促進 2-2 スマートタウン*の整備促進
	②事業活動への次世代エネルギーの浸透	2-3 公共施設や民間施設への次世代エネルギーの導入促進 2-4 次世代エネルギー技術の産業利用拡大に向けた実証・研究の支援
	③次世代エネルギー発電事業等の立地促進	2-5 次世代エネルギー発電事業に関する立地支援策の検討 2-6 地域資源を活用したバイオマス発電*事業の可能性検討
3 持続可能な産業構造への転換	①既存のエネルギー関連産業に対する取組支援	3-1 次世代エネルギー関連産業に関する情報提供やビジネスマッチング 3-2 エネルギー関連設備投資等に対する費用補助
	②次世代エネルギー関連産業への参入促進	3-3 次世代エネルギー関連技術の開発支援 3-4 次世代エネルギー関連企業の誘致
	③次世代エネルギー産業創出に向けた基盤形成	3-5 次世代エネルギー関連技術の研究拠点の形成 3-6 地域エネルギービジネスの創出促進

次世代エネルギー

薩摩川内市では、太陽光や風力、バイオマス等の再生可能エネルギーに加えて、甌島の海洋資源を有することから未利用の海洋エネルギーまで含めたものを「次世代エネルギー」と呼んでいます。



基本方針と主な取組内容

基本方針1 市民理解の向上

平成36年度に目指す姿

次世代エネルギーやエネルギー関連産業について、用語の意味を知っているだけでなく、具体的な内容や取組の必要性までを含め、関心を有している市民がほとんどとなっています。

成果指標

省エネルギーや太陽光発電施設導入に関心がある市民の割合

(平成27年度)76.2%
⇒(平成31年度)90.0%

90.0%

取組の方向性と具体例

テーマ1 市民にとっての分かりやすさを重視した普及啓発

1-1 参加・体験を重視した普及啓発

- 次世代エネルギーに見て・触れられる体験設備
- 次世代エネルギー導入による節約効果等の実用性の高い情報の発信 等



▲ FM さつませんだい等メディアの活用

1-2 観光施設やスポーツ交流施設への次世代エネルギーの導入促進

- 施設利便性の向上に資する次世代エネルギー設備の活用



サンアリーナせんだい

テーマ2 快適で安全・安心な市民生活を支える次世代エネルギー技術の普及

1-3 市民生活における非常時のエネルギー確保の向上

- 非常時のエネルギー確保に役立つ次世代エネルギー関連設備の紹介・展示
- 住宅や電化製品への給電に関する情報提供 等

1-4 次世代自動車の導入促進

- 「動く蓄電池」として平常時の電力需要の調整や、非常時の緊急電源として活用 等



▲ 電気バス

1-5 次世代自動車の利用環境の整備促進

テーマ3 「エネルギーのまち」のブランド化

1-6 次世代エネルギー見学ツアーの企画・運営支援

- 市内の次世代エネルギー設備を結ぶ観光ルートの設定
- 甌島エコツーリズム*との連携 等



1-7 「エネルギーのまち」をテーマとしたシティセールス*の推進

- 次世代エネルギーを利用して生産した製品等のPR
- エネルギー関連の学協会や業界団体等に対する情報発信 等

基本方針2 全市レベルで取り組むエネルギー構造転換

平成36年度に目指す姿

次世代エネルギーの導入とエネルギーの地産地消をさらに推進し、「エネルギーのまち」として、市内で消費するエネルギーの一定程度を賄えるようになっています。

成果指標

次世代エネルギーによる電力自給率

(平成27年度)33.7%

39.9%

※次世代エネルギーの拡大見込み(平成27年度⇒平成36年度)
太陽光発電 8.2万kW⇒11.53万kW 風力発電 2.76万kW⇒2.77万kW
小水力発電 30kW⇒330kW バイオマス発電* 2.37万kW⇒2.57万kW

取組の方向性と具体例

テーマ1 スマートハウスの普及促進

2-1 市民生活への次世代エネルギーの導入促進

- 「地球にやさしい環境整備事業補助金」の運用による設備導入の支援



▲ プラグインハイブリッド自動車(PHV)、電気自動車(EV)



▲ 住宅用太陽光発電設備

2-2 スマートタウン*の整備促進

- 市有地を利用した民間主導による「スマートタウン*」の整備プロジェクトの促進

テーマ2 事業活動への次世代エネルギーの浸透

2-3 公共施設や民間施設への次世代エネルギーの導入促進

- 費用対効果やPR効果を考慮しながら、次世代エネルギーを率先導入



総合運動公園第4駐車場▶の太陽光発電設備

2-4 次世代エネルギー技術の産業利用拡大に向けた実証・研究の支援

- 民間事業者によるソーラーシェアリング*や木質・竹バイオマスエネルギーの活用 等

テーマ3 次世代エネルギー発電事業等の立地促進

2-5 次世代エネルギー発電事業に関する立地支援策の検討

2-6 地域資源を活用したバイオマス発電*事業の可能性検討

- 本市周辺を含む広域で、生産から加工・流通・売電まで一連で事業化が可能か検討 等



▲ 市内に立地する大型の木質バイオマス*発電設備

基本方針3 持続可能な産業構造への転換

平成36年度に目指す姿

次世代エネルギーの利用拡大を通じて、既存のエネルギー関連産業が発展・強化しているほか、エネルギー関連ビジネスへの参入や新たな産業分野の創出に向け、事業者の意識向上や実証的取組の増加が着実に進んでいます。

成果指標

エネルギー産業との関わりを維持・拡大したいと考える事業者の割合

(平成28年度)23.1%

44.4%

成果指標

エネルギー分野に関する実証・実装の新規取組数(累計)

5件

取組の方向性と具体例

テーマ1 既存のエネルギー関連産業に対する取組支援

3-1 次世代エネルギー関連産業に関する情報提供やビジネスマッチング

- 市内エネルギー関連産業に属する企業の情報発信
- 次世代エネルギーに関する勉強会の開催
- コーディネーターや専門家の派遣 等



3-2 エネルギー関連設備投資等に対する費用補助

- 「地球にやさしい環境整備事業補助金」の運用による設備導入の支援

テーマ2 次世代エネルギー関連産業への参入促進

3-3 次世代エネルギー関連技術の開発支援

- 技術実証プロジェクトの誘致
- 費用補助や情報発信等の技術開発支援 等



▲ メイドイン薩摩川内LED灯



▲ 竹紙ノート



▲ セルロースナノファイバー*

3-4 次世代エネルギー関連企業の誘致

テーマ3 次世代エネルギー産業創出に向けた基盤形成

3-5 次世代エネルギー関連技術の研究拠点の形成

- 次世代エネルギーの発電・送電・活用に係る技術のマネジメント手法を地域ビジネス化する活動拠点の形成 等

3-6 地域エネルギービジネスの創出促進

- 「地域エネルギー会社」の設立を目指した取組の検討と、高齢者の見守り支援等の生活支援サービス提供の実現可能性の検討 等

